

令和4年度 研修報告書 第49号

元気な団体の秘訣を探る

～元気に活動する2つの団体の調査をとおして～



「地域学校協働活動：竹林整備事業」
(柴田町上川名地区活性化推進組合)

【大河原地区社会教育主事研究協議会】

目 次

発刊にあたって	大河原地区社会教育主事研究協議会 会長 佐藤 洋一
発刊を祝して	宮城県大河原教育事務所 所長 高橋 紳一郎
◇研修テーマについて (序論)	1
◇研修日程と経過について	2
◇仮説	6
◇きらりよしじまネットワークの取組について (調査分析)	7
◇上川名地区活性化推進組合の取組について (調査分析)	17
◇比較及び考察	31
◇まとめ	35
◇おわりに	37

発刊にあたって

新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まってから3年が経過しました。常時マスクを着用し、密接を避け、施設に立ち入る際には検温と手指消毒を欠かさないという感染症流行下の行動様式も、もはや当たり前に感じられる昨今です。社会教育の現場においても、正しく対策を講じればほとんどの行事が開催可能であることが判明し、安全性を高めた上で適切な事業展開が見られるようになり、社会がすっかりコロナに馴染んだと実感するようになりました。その一方で、未だ懸念や警戒の声も根強く存在するのも事実です。地域の社会教育団体の中には、警戒心を払拭することができず、未だ活動再開の目途が立たないところも見受けられます。来年度は、アフターコロナを見据えた社会運営を考えていく時期に至ると推察します。このような中、地域の社会教育の担い手である団体や個人が、無理なくスムーズに従来の活動意欲を取り戻していくために、我々社会教育主事の指導・支援がよりいっそう重要性を帯びてくることでしょう。

今年度の研修報告書は『元気な団体の秘訣を探る～元気に活動する2つの団体の調査をとおして～』と題しました。多くの構成員の参画を得ながら活発な活動を持続的に行っている地域団体を『元気な団体』と定義し、その活発さの根源がどこにあるのかを、山形県川西町吉島地区のきらりよしじまネットワークと、柴田町上川名地区の上川名地区活性化推進組合という2つの『元気な団体』に対する調査分析・検討を通じて探ろうと試みたものです。1年にわたる研修活動を通じて、多くの構成員が参画する求心力の源は何なのか、活発な活動のエネルギーがどこから発せられるのか、継続的な活動を実現するために何を見据えているのか等、『元気』の秘訣を解き明かすことを目指しました。研修委員の多くは20代の若手であり、地域の社会教育団体と接している中で、どうしたらより元気になってもらえるか腐心する日々を送っているようです。今回の研修が彼らの社会教育主事としてのスキルアップにつながり、解明した秘訣を業務に活用することができるなら、当研究協議会としてこの上ない成果を得たと言えるでしょう。また、前段でも述べた通り、今後は、アフターコロナを見据えて地域社会が平常を取り戻していく時期が訪れると考えられます。そうした中、社会教育に携わる多くの人々にとって、本書が幾許かの参考になれば幸いに存じます。

末筆ではありますが、本書を発行するにあたり、1年にわたり御指導を賜りました大河原教育事務所の皆様、研修委員派遣をはじめ諸般の御協力を賜りました管内社会教育部局各位、コロナ禍であるにもかかわらず視察・研修にご協力下さり、きわめて先進的な取組が行われていることをお示し下さった川西町きらりよしじまネットワーク様・柴田町上川名地区推進組合様に対して、心より感謝の意を表し発刊の言葉といたします。

令和5年3月

大河原地区社会教育主事研究協議会

会長 蔵王町社会教育主事 佐藤洋一

発刊を祝して

宮城県大河原教育事務所 所長 高橋 紳一郎

近年、テクノロジーの更なる進化により、私たちを取り巻く環境はより複雑化しています。「VUCA（ブーカ）時代」と呼ばれる昨今は、将来の予測が極めて困難であり、あらゆる面で今までの常識が通用しなくなってきました。さらに、新型コロナウイルスの流行に伴い、これまで当たり前のように行われてきた人が集い、語り、直接体験をとおして広げたり深めたりしてきた学びの形も、変化を余儀なくされました。

このような状況の中、日頃から社会教育の中心的な担い手として、各市町において熱心に御活躍されている大河原地区社会教育主事研究協議会の皆様方には、深く敬意を表します。住民一人一人の学びを支え、より充実させるために手を差し伸べるだけでなく、地域住民がつながる「場」の提供や、コミュニティづくりの支援にも精励されている皆様方は、まさに地域住民にとって欠かせない存在です。

教育委員会の中で社会教育に関する専門的職員である皆様方が、この予測困難な時代を先導するために、多様な課題の把握やその解決に向けた研修に主体的に取り組み、その成果を「研修報告書第49号」として発刊されましたことを心よりお祝い申し上げます。

人口減少が続く現在、少子高齢化といった課題がより顕在化した地域社会において、新しい地域づくりに向けた社会教育の役割はこれまで以上に大きいものがあります。既存の各種団体が担っていた多岐にわたる地域住民への働き掛けは、様々な事情が複合的に重なり、従来と同じように進めることが難しくなってきました。これまでの行政サービスを受ける受益者としての住民から、地域社会を形成する一員として活動に参画していく主体者へと成長を促すことは、持続可能な地域づくりの実現にとってとても重要です。共に学び、支え合う生涯学習・社会教育の実現は、新しい時代を迎えた地域づくりでも有益であるだけでなく、その先にある地域住民のウェルビーイングの実現にもつながるはずです。

今年度は、そのような地域課題の解決を目指し、研修委員の皆様が各市町の現状を確認したり、先進的な取組を実践している2つの団体を比較調査したりしながら、各種団体が今よりさらに主体的かつ熱心に活動を展開するための秘訣を研修報告書としてまとめられました。この報告書が、管内の持続可能な地域づくりの構築や、主体的に活動できる団体の育成に向けた一助となるよう祈念しております。

結びになりますが、本書の発刊に当たり御尽力された研修委員の皆様、そして貴協議会及び会員の皆様を支えていただいている大河原管内各市町教育委員会教育長様をはじめ、関係する全ての皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後の社会教育・生涯学習の振興と貴協議会の益々の御発展を祈念いたしまして、発刊を祝しての言葉といたします。

序 論

序 論

昨今、地域社会には人口減少や高齢化、つながりの希薄化などの問題があり、持続可能な社会づくりをどのように進めていくかが、喫緊の課題となっている。中央教育審議会による「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」では、持続可能な社会の実現には、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わることが重要であるとされ、地域における社会教育の果たすべき役割として、「社会教育」を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくりが挙げられている。最近では、これまで行政が果たしてきた役割を住民が担う、もしくは担わざるをえない場面もみられ、地域づくりを目的とした住民主体の新たな団体も生まれている。このことから、地域においての住民に求められる役割は、今後ますます大きくなっていくことが想定される。

これらの役割の多くをこれまで担ってきたのが、婦人会、青年会及び文化協会などの地域に根差した団体であり、行事の開催や運営の過程において地域住民の交流の場を生み出し、人づくり、つながりづくり、地域づくりにとって重要な役割を果たしてきた。

我々は研究テーマ選定の際に、地域団体の活動状況について確認し合ったところ、多くの団体の活動が停滞したり、いくつかの団体は消滅したりしている現状が見られた。また、どの自治体にも、活動がマンネリ化したり、存在自体が地域住民の重荷になったりしている団体も確認された。多くの団体が、実質的な運営が行政主導になってしまっている状況も見受けられ、団体運営の現状に問題意識を持った。

行政が意思決定の主体となってしまえば、住民が地域づくりの主体を担っているとはいえない。また、言われたことをやるという図式が住民の自主性をそいでしまい、結果として団体が「地域づくり」の主役にならないという悪い循環が生まれてしまう。一方で、団体で意思決定を行い、自主的及び主体的に活動し、その活動が「地域づくり」への多大な貢献となっている団体も存在している。

団体育成は我々社会教育主事の大きな役割である。社会教育法第9条の2には「社会教育主事は社会教育を行うものに専門的技術的な助言と指導を与える」とある。しかし、現状では地域団体を活性化するための有効な方策を取ることができず、手をこまねいてしまう場面が多い。

以上のような課題を解決するために、活発に活動している団体を調査し、そのような団体に共通する条件を明らかにすることで、今後、地域で活動する様々な団体に対してよりの確な助言や指導を与えることができると考えた。社会教育主事として、地域の様々な団体に意図的に関わり、団体の更なる育成につなげることを目指し、「元気な団体の秘訣を探る」というテーマを設定して研究することとした。

研修日程と経過について

研修日程と経過について

本年度の研修委員会は、団体への適切な指導・助言を行う社会教育主事としての資質を養うため、各市町の団体の現状や活動状態が良好な団体について調査を行い、協議を進めてきた。ここでは、本年度の研修の経過として、本書をまとめるまでの各回の内容を記す。

【第1回研修委員会】5月17日（火）

研修テーマの検討。各委員が研修したいテーマの案を持ち寄り、内容について協議を行った。「つながりづくりの手法」をテーマとし、「団体育成の在り方」「生涯学習支援の現在」「新しい学びの実践」をキーワードとしながら研修を進めていくこととした。

【第2回研修委員会】6月3日（金）

研修の基本構想と方向性について検討。各市町が事前に社会教育関係団体について調査を行い、団体把握のため情報共有を行った。2グループに分かれ、活動が活発な団体の成り立ちや事例等についてさらに情報を共有し、意見交換を行った。活発な要因と考えられる下記のキーワードが挙げられた。

- 集まる回数が多い
- 代表者のやる気
- 事務局の人柄
- 名称・シンボリックなことに集まる
- 人、ネタ、関係が良好

【第3回研修委員会】7月5日（火）

各市町で選出した特色ある団体（社会教育法第10条に準ずる）について情報を共有し、団体育成や連携の在り方について現状を確認した。課題や気づいたことを共有する中で、元気な団体に必要な要素として下記のキーワードが挙げられた。

- 余暇時間
- 熱意のある人
- 世代間交流
- 地域愛着
- 子供、成年
- 地域活動

また、先進地研修視察の候補地についても協議し、山形県川西町「きらりよしじまネットワーク」を訪れ調査を行うこととした。

【第4回研修委員会】9月1日（木）

研修内容の検討を行い、「つながりづくり」には「個をつなげるつながり」「サークルや団体の中
のつながり」「団体同士のつながり」の3つの側面があることを確認した。活発で元気な団体の要素
として想定したキーワードが、どのようにすればうまく機能するのか、また他にもキーワードとな
り得る秘訣が存在するのかを、先進地研修視察を通して調査することとした。

【きらりよしじまネットワーク視察】9月9日（金）

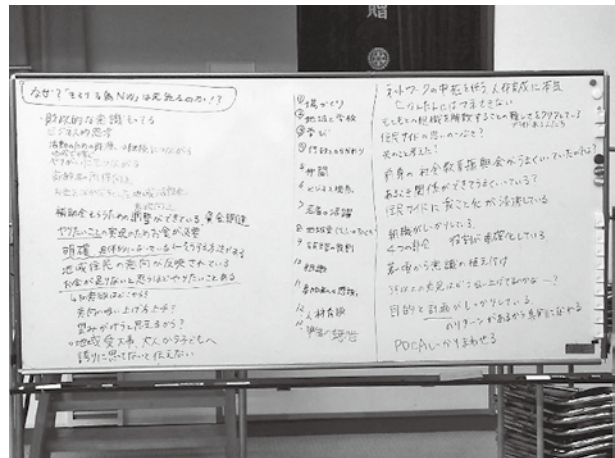
山形県川西町吉島地区交流センターへ伺い、「きらりよしじまネットワーク」の研修視察を実施。
事業内容や取組の手法についてお話を伺ったほか、事前にまとめた質問内容に御回答いただいた。
視察後には、七ヶ宿町活性化センターへ場所を移し、感想の共有を行った。



【印象に残った言葉を付箋に書き出し、全体で共有】

【第5回研修委員会】10月5日（水）

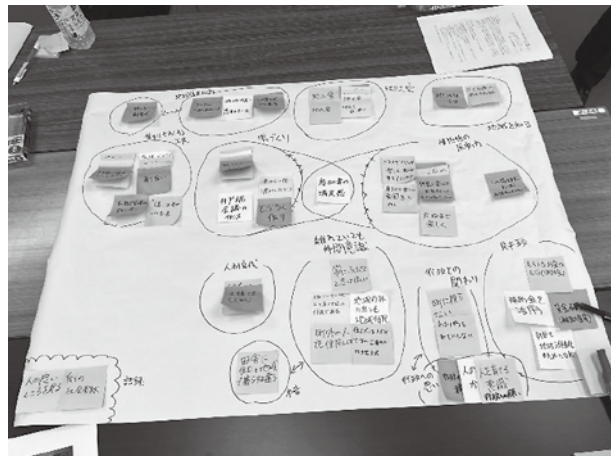
研修視察の内容を改めて振り返りながら、「きらりよしじまネットワーク」からの学びや気づきを
共有した。広域的に活動している「きらりよしじまネットワーク」の活動を踏まえて、比較対象と
して柴田町の「上川名地区活性化推進組合」についても調査を行うこととした。



【感想を共有した模造紙を確認しながら、改めて「きらりよしじまネットワーク」を分析】

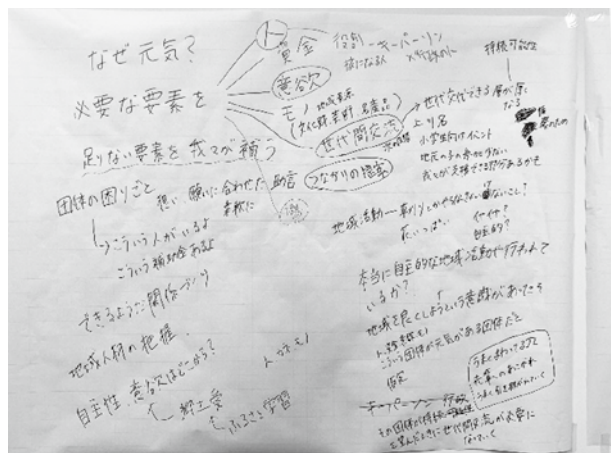
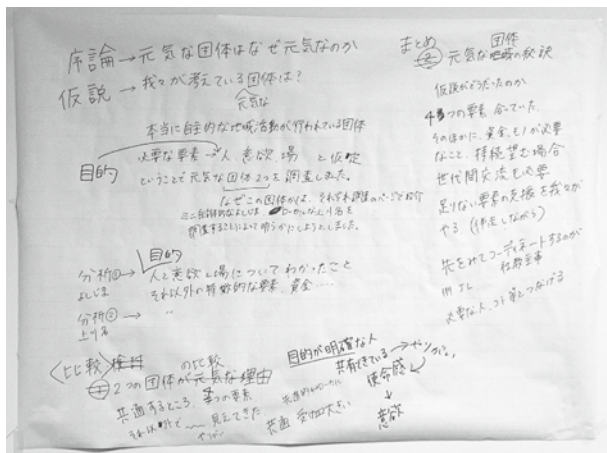
【第6回研修委員会】 11月18日（金）

柴田町の「上川名地区活性化推進組合」の方を招き、座談会を実施。お話を伺った後、「きりりよしじまネットワーク」と比較し、共通する部分や異なる部分について意見交換を行った。また、報告書の項立てを行い、2つの地区から学んだ内容を比較及び分析しながらまとめていくこととした。



【第7回研修委員会】 12月14日（水）

座談会の振り返りを共有した後、報告書のまとめ方について協議した。想定していた内容や、研修を通して学んだこと等、模造紙に書き込みながら考えを整理した。



【第8回研修委員会】 1月18日（水）

担当ごとに報告書の原稿案を持ち寄り、構成・内容の確認を行った。

【第9回研修委員会】 2月14日（火）

研修報告書の校正等を行った。

【第10回研修委員会】 3月2日（木）

研修報告書の最終校正、1年間の振り返りを行った。

【日程表】

月 日 (曜日)	会 議 名	会 場	内 容
4月28日 (木)	○社会教育主事研究協議会総会	合同庁舎	令和3年度事業・会計決算報告 令和4年度事業・予算・役員改選等 研修委員会役員の選出
5月17日 (火)	○第1回研修委員会 ○第1回社会教育主事研究協議会	白石市	研修テーマ及び研修計画の検討等 話題提供(蔵王町)
6月3日 (金)	○第2回研修委員会 ○第2回社会教育主事研究協議会 (社会教育協会大河原支部総会・研修会)	合同庁舎	研修の基本構想, 先進地視察候補の 検討, グループワーク等
7月5日 (火)	○第3回研修委員会 ○第3回社会教育主事研究協議会	村田町	研修内容, 先進地視察先の検討等 話題提供(白石市)
9月1日 (木)	○第4回研修委員会	合同庁舎	研修計画, 研修内容, 研修視察での 質問内容・役割等の検討
9月9日 (金)	○先進地研修視察 「きらりよしじまネットワーク」	山形県 川西町 (七ヶ宿町)	事業内容・手法の調査等 (感想共有)
10月5日 (水)	○第5回研修委員会 ○第4回社会教育主事研究協議会	丸森町	研修視察のふりかえり, 研修内容の検討等 話題提供(村田町)
11月18日 (金)	○第6回研修委員会 座談会 (上川名地区活性化推進組合) ○第5回社会教育主事研究協議会	合同庁舎	事業内容・手法の調査等 調査団体の比較検討, 研修報告書の 検討等
12月14日 (水)	○第7回研修委員会	合同庁舎	研修のまとめ, 研修報告書の検討等
1月18日 (水)	○第8回研修委員会 ○第6回社会教育主事研究協議会	川崎町	研修報告書の検討等 話題提供(丸森町)
2月14日 (火)	○第9回研修委員会	合同庁舎	研修報告書の校正等
3月2日 (木)	○第10回研修委員会 ○第7回社会教育主事研究協議会	大河原町	研修報告書の最終校正, 研修のまと めと反省, 次年度の研修について等 話題提供(川崎町)

仮 説

仮 説

「元気な団体」とはどのような団体であろうか。話し合いの中で共有化された「元気な団体」のイメージは、「やりたいことを、どうすればできるか自分たちで考え、その考えに基づき主体的に活動している団体」というものであった。また、辞書を紐解くと、元気とは「心身の活動の源となる力」とあった。これを団体に置き換えてみると、「元気な団体」とは活動の源となる力が、組織の内側から湧き出するような団体であると言えるのではないかと考えた。

このことから我々は、「元気な団体」を「自主的な活動が行われている団体である」と定義し、団体が自主的及び主体的に活動を行うための要素として「目的」「人」「意欲」「場（機会）」が必要であるという仮説を立てた。

1. 「目的」

「目的」は活動の動機とも言える。同じ目的を持った人々が集まり、力を合わせることで、個人では達成できないことも可能となる。目的達成のために団体が生まれるとすれば、「目的」は団体の条件と言える。また、目的達成のためにPDC Aサイクルを回すことによって、活動内容はより洗練されていくであろう。一方、目的が明確でない団体の活動はマンネリ化、形骸化する可能性が高いと考える。したがって、「目的」が「元気な団体」に必要な要素ではないかと考えた。

2. 「人」

「人」とは団体の核となるいわゆるキーパーソンであり、行政との関係あるなしに関わらず、目的に対する熱意を持ち、それを伝播させ、リーダーシップを発揮したり、調整役を担ったりする人物のことを指す。「元気な団体」を思い浮かべると、多くの場合、特定の人物の顔が思い浮かぶ。中心的役割を担う「人」が、団体活動に必要な要素ではないかと考えた。

3. 「意欲」

「意欲」は人間が自主的に活動するために不可欠な要素であり、それは団体活動にも当てはまる。「地域をもっと良くしたい」という前向きな感情や「このままでは地域が危ない」といった危機感など、様々な動機から「意欲」が湧き、活動への自主性につながると考える。また、これらの動機を団体メンバーが共有することで、それぞれのメンバーの考えや思いの方向性を揃えることができるであろう。したがって「意欲」が「元気な団体」に必要な要素ではないかと考えた。

4. 「場（機会）」

「場（機会）」は、団体のメンバーが集まり、意見を交わすために不可欠である。団体は個人の集合であり、各個人の意見が忌憚なく述べ合われ共有されなければ、「元気な団体」を維持することはできないであろう。活発な団体には、メンバーが楽しそうに集まれる場所や機会がある。会議や協議会、懇親会や井戸端会議など、形態は様々であるが、「場（機会）」が、「元気な団体」の重要な要素ではないかと考えた。

以上4つの要素が「元気な団体」に必要なものであるという「仮説」を設定した。これに基づき、実際に団体を調査し、仮説の検証を行うこととした。

調査の対象は、自主的及び主体的に活動を展開している2つの団体を設定した。一つは、全国的にも先進的な活動を行っている「きらりよしじまネットワーク」、もう一つは、地元である仙南地域で、地域に根差した活動を行っている「上川名地区活性化推進組合」である。規模や地域性、組織や活動内容等が異なる2つの団体への調査を通して、その違いを超えて共通する「元気な団体」の要素を明らかにすることで、「仮説」の検証を行うこととした。

